



木とふれあい、 木に学び、木と生きる



「木育」を知っていますか？

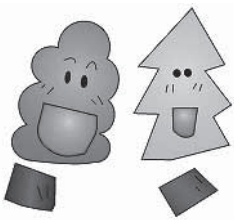
「木育」という言葉を聞いたことがありますか。

木育とは、その字が表すとおり、子どもを始めとするすべての人が木とふれあい、木に学び、木と生きることを指しており、木育をとおして、人と木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことを目指しています。

木に触れることは、子どもの成長発達を促します。また、私たち大人も木に触れることで、リラクセスし優しい気持ちになり、木の良さを再発見できます。

山県市だからこそ取り組む「木育」の意味は？

市では、乳児健診の中で木育の話聞く機会を設けたり、高富児童館で木育に関するイベントを行っています。また、今年度から木育教室を毎月1回行っています。



では、木育教室について紹介します。

木育教室は、ふれあいセンター2階の「木のおもちゃのへや」で行っていますが、皆さん入ったことがありますか。

教室に入った瞬間、木々の芳しい匂いが鼻をくすぐります。

部屋の中には、国産の木のおもちゃがあります。

不思議そうに目をまばたきさせて、木のおもちゃの触り心地に自然と顔がほころぶ赤ちゃんの姿。

「どうやって遊ぶんだろうね」と親子で楽しそうに会話する姿。

木とのふれあいの中で生まれる微笑ましい光景が、木育教室にはあります。

子どもに木育を行う目的の1つに、木や森との関わりを主体的に考えられるようになってほしいということがあります。

木育教室に来て、発達に合ったおもちゃで遊び、木とふれあうことにより、豊かな心が育つことを願って、教室を行っています。



おもちゃコンサルタントマスター 浅野美香子さんのお話

環境について考え行動できる人間に

—— ずばり、浅野さんにとって
木育の魅力とは？

木育をやり始めてすごく感じたのは、作り手や使う人など、いろいろな人とつながれるなという事です。

おもちゃの作り手は、おもちや一つ一つに思い入れがあります。それを知るのが面白いし、その思いを周囲に伝えるのが、私の役割だと思っています。

—— なるほど。それでは、木育を行う上で大切にされていることは？

どうやったら木を身近に感じてもらえるかを考えながら行っています。

単なる木の製品として見るのではなく、それが山に生えている木であったことに気付いてほしいなと思っています。

美山の杉のように、気軽に手

に入り、自分で加工できる物もあるんだよということを守護者に知ってほしいんです。

—— 大人が、まず木育に関心を持つということも大切ですね。

そうですね。木育教室にせっかく来てくださったとしても、その後、木に触れる機会がないと、木とのつながりが切れてしまいます。

そうならないためにも、子どもにも木に触れるイベントなど木や自然に関わる多くの経験をさせてあげてほしい。できれば、子どもと一緒に保護者も木に触れて「子どものために、この環境を守っていかないと」って気付けてくれるといいですね。子どもにも大人にも、木に触れるきっかけに良いのが木育じゃないかなって思います。



—— その中で、木育教室は最初のきっかけづくりという位置づけになるわけですね。

そうですね。教室で子どもの年齢や発達に応じた木のおもちゃに触れ、木育に興味を持つといいと思います。また、地域で子育てをする人が、孤立しないようにしたい、という願いもあります。教室に来ることで、保護者がリラックスしたり安心してたりできるというかなと考えています。

今後も、教室が親さんたちにとって、気軽に足を運べる場所でありたいですね。

★ 木育教室 ★

場所：木のおもちゃのへや
(保健福祉ふれあいセンター2階)
時間：10時～11時30分

9月21日(木)	10月27日(金)
11月28日(火)	12月21日(木)
1月22日(月)	2月27日(火)
3月22日(木)	

※乳幼児相談も同時開催しています。(10時～11時)

いかがでしたか。
この記事を読んでくださった皆さんが、少しでも木育に興味を持っていただけたらうれしいです。

固健康介護課 TEL 22-6839

